



## 富山丸

主に独立混成第四十四、四十五旅団を沖縄に派遣するため宇品から門司・鹿児島を經由して那覇に向かう。

奄美群島徳之島亀津北東において米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没

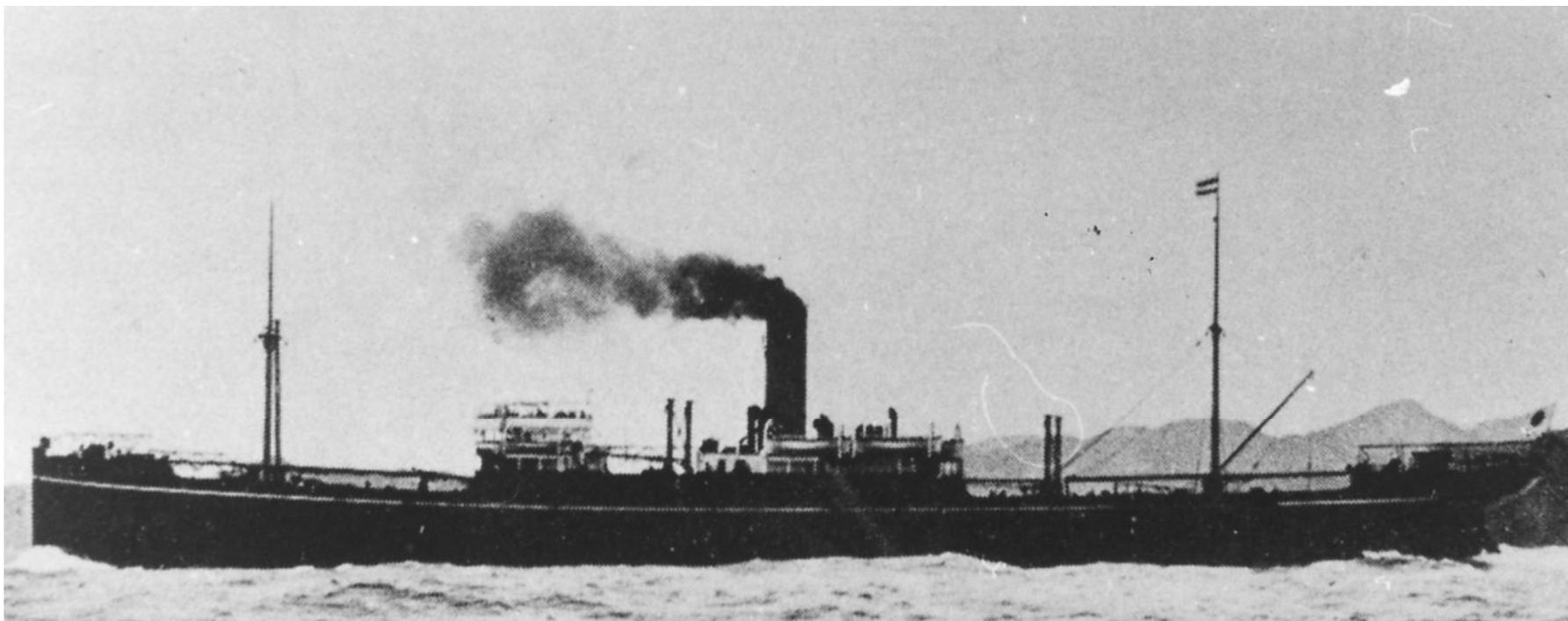
乗船部隊（敗戦時の球部隊位置：沖縄・石垣島・宮古島）

船団指揮官	陸軍大佐	柴田常松	編成：熊本	通称	たま（球）部隊
球7070	630名	独立混成第44旅団	第一歩兵隊		
球7071	792名	独立混成第44旅団	第二歩兵隊		
球7072	150名	旅団砲兵隊			
球7073	63名	旅団工兵隊			
球6461	324名	独立混成第45旅団	独歩第298大隊		
球6462	419名	独立混成第45旅団	独歩第299大隊		
球6463	407名	独立混成第45旅団	独歩第300大隊		
球6464	405名	独立混成第45旅団	独歩第301大隊		
球6465	150名	旅団工兵隊			
球12518	171名	第32軍兵器勤務隊			
球15393	127名	第129野戦飛行場設定隊			
球1616	12名	第32軍司令部			
球6071	4名	宮古島陸軍病院			

燃える海—輸送船富山丸の悲劇— 福地曠昭 編著 南島叢書41 から抜粋  
生存者は徳之島住民や僚船に助け上げられ徳之島の病院・学校などに収容されたが、戦闘行動に耐えられる軍人は漁船や機帆船によって沖縄戦線に運ばれ、折角命拾いした多くの方達が命を落としている。

#### 出典

1. 船舶輸送間における遭難部隊資料 第二復員省 史料
2. 日本陸海軍部隊要覧 新風書房
3. 戦時船舶史 駒宮真七郎著
4. 陸軍徴傭船舶行動調書 厚生労働省
5. 燃える海—輸送船富山丸の悲劇— 福地曠昭 編著 南島叢書41
6. 日本陸軍部隊



## 富山丸 7,089総トン 西大洋漁業

- 昭和19年6月25日 宇品出港  
昭和19年6月27日1200 那覇に向け鹿児島をカタ412船団として出港  
昭和19年6月28日1500 奄美大島古仁屋入港  
昭和19年6月29日0400 同港出港  
昭和19年6月29日0725 北緯27度43分、東経129度04分（徳之島亀津北東12Km付近）において米潜水艦SS-187 *Sturgeon*の魚雷攻撃を受け被雷沈没。  
船員70名、船砲隊6名、兵員3,654名戦死 生存者は270名から300名と思われる。

Submarine *Sturgeon* (SS-187) attacks Japanese convoy, sinking army cargo ship *Toyama Maru* in the Nansei Shoto, off Taira Jima, 27° 47' N, 129° 05' E.

<http://www.ibiblio.org/hyperwar/USN/USN-Chron/USN-Chron-1944.html>



富山丸 戦没海域 鹿児島県徳之島亀津 現亀徳港 北東約12Km